

洋14-42 (ショートコメント)

「グランドピアノ～狙われた黒鍵～」

☆☆☆

2014 (平成26) 年3月27日鑑

賞<テアトル梅田>

監督：エウヘニオ・ミラ

脚本：ダミアン・チャゼル

トム・セルズニック (天才ピアニスト) / イライジャ・ウッド

スナイパー / ジョン・キューザック

エマ・セルズニック (トムの妻、人気女優) / ケリー・ビシエ

アシュリー (ウェインの妻) / タムシン・エガートン

ウェイン (トムの友人) / アレン・リーチ

ノーマン・ライジンガー (指揮者) / ドン・マクマナス

スナイパーの助手 / アレックス・ウィンター

2013年・スペイン・アメリカ映画・91分

配給 / ショウゲート

◆天才ピアニストしか弾けない難曲『ラ・シンケッテ』。恩師パトリック・ゴードラーが書いたそんな曲に挑んだ天才ピアニスト、トム・セルズニック (イライジャ・ウッド) は、かつてその演奏に失敗し、失意のどん底にあった。しかし、5年後の今、妻で女優のエマ・セルズニック (ケリー・ビシエ) の励ましを受けて復帰演奏に挑戦することに。シカゴの会場では、満員の観客が指揮者のノーマン・ライジンガー (ドン・マクマナス) と共にトムの復帰演奏を心待ちにしていたが、トムが弾き始めると、楽譜には赤い矢印が。そして、演奏しながらそれをたどっていくと、「音符を一つでも間違えたら、君を殺す」「助けを呼んだら肩間を撃ち抜く」との脅迫文字が……。こりゃ一体ナニ？誰かのいたずら……？

最初はそう思っていたが、ライフルの照準器から発せられる赤い光の点が自分の身体に当てられるのをみると、やっぱりこりゃ本気！一体、誰が、何のためにこんなことを……。

◆華やかだが密閉された演奏会場の中、さらに万人注視の下で弾くピアニスト、というこれ以上ない不自由さの中で展開される殺人ミステリー(?)は、アイデアと脚本の出来が勝負。トムを狙うスナイパー (ジョン・キューザック) はラスト近くに至るまで一切姿を見せず、もっぱら声だけの出演だから、緊張感の盛り上がりは2人の会話のみだ。しかして、トムはピアノを弾きながらどうやってスナイパーと会話を……？

そこらをあまり現実的に追及すると、本作の根本が崩れてしまうので、「そんなのありえねー」というのはダメ。もっとも、最高の難曲を弾きながら、同時にスマホを駆使して会場にいる友人のウェイン (アレン・リーチ) に危険を知らせる姿をみていると、あまりにあまり……。

もっとも今、トムが弾いているStephan Yeranosian (実際にはビクター・レイエス) 作曲の『ピアノ協奏曲第4番』は、音楽家でもあるエウヘニオ・ミラ監督が自ら作曲した曲らしいが、これが何ともカッコいい。また、トムの演奏シーンをじっくり観ていると、カメラ技術のごまかしだけで処理せず、あたかもトムが現実弾いているように見えるから、『ホビット 思いがけない冒険』(12年)で一躍有名になったイライジャ・ウッドのピアノ技術は相当なもの……？

◆中国の二胡、日本の琴、西欧のウクレレやギターなど、弦楽器は昔からある単純な楽器だが、グランドピアノはからくり人形と同じく、複雑かつ繊細なメカニズムで作られている。日本ではヤマハやカワイが有名だが、本作に登場するのは通常の88鍵に9鍵の低音部を拡張し、97鍵盤を持つ特殊なピアノらしい。スナイパーの脅迫は、当初は「音符を一つでも間違えたら、君を殺す」だったが、トムが耳に無線受信機 (イヤフォンチップ) を付けてからの会話を聞いていると、スナイパーがやけに、『ラ・シンケッテ』の最後の4小節を強調していることがわかる。

そもそも、コンサートの曲目は最初から決められているから、会場でのハプニングはせいぜいアンコールで何が出てくるか程度だが、本作ではウェインがアナウンスした2曲目を、スナイパーの指示に従ってトムが『ラ・シンケッテ』に突然変更！これには会場から大きな拍手があがったが、5年前に失敗した曲をトムは今回はまちがいに弾けるの？そして、スナイパーはなぜ、『ラ・シンケッテ』の最後の4小節を正確に弾かせることにこだわるの？

◆ふつう音楽家 (芸術家) は貧乏なもの相場が決まっているが、昨年死去したパトリック・ゴードラーは音楽界の奇人と称されるとともに、莫大な隠し財産があると噂されていたらしい。トムがそれを知っていたのかどうかは知らないが、スナイパーの狙いがそこにあり、『ラ・シンケッテ』のラスト4小節をトムに正確に弾かせることに固執したのもそこにあったことが、中盤でのトムとスナイパーとの会話を聞いているとよくわかる。しかし、それならトムに多額の謝礼を包んでそれを弾いてもらうなど、他の方法がいくらでもあるはずで、こんな手の込んだ方法をとらなくても……。さらに、ベーゼンドルファーのグランドピアノ、モデル290インペリアルに隠されたパトリックの隠し財産を盗むだけなら単なる窃盗だが、トムのSOSに対応したウェインや妻のアシュリー (タムシン・エガートン) をスナイパーの助手 (アレックス・ウィンター) を使って殺してしまうと、殺人事件になってしまう。もっとも、これは弁護士の意見であって、本作のミステリー色を強めるためには、『ラ・シンケッテ』の最後の4小節というキーワードは不可欠だ。

もっとも、現実にはトムが最後の4小節を弾き終わっても、グランドピアノ (=インペリアル) には何の変化も起こらなかったが、それはなぜ？ひょっとして、トムはまた演奏をミスしたの？それとも、わざとまちがえて何らかの手を打ったの？さあ、そんなミステリー色を加えながらのクライマックスは、あなた自身の目でしっかり。

201

4 (平成26) 年3月28日記